

別記関係機関・団体の長 殿（様）

鹿児島県病害虫防除所長

平成19年度技術情報第8号（イチゴのナミハダニに対する殺ダニ剤の効果試験結果）について
（送付）

近年、定植初期からナミハダニの発生が多く、本年も多くの育苗ほで発生が認められています。ダニ剤の感受性低下も懸念されていることから、室内で殺虫試験を行い、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考にしてください。

.....
平成19年度 技術情報第8号

- 1 対象作物 イチゴ
- 2 対象病害虫 ナミハダニ（卵，幼虫）
- 3 検定虫採集場所
 日置市伊集院町中川，さつま町湯田，志布志市有明町野神（各1ほ場）
- 4 供試薬剤
 殺卵試験 - 6 剤
 殺幼虫試験 - 8 剤
 薬剤名は別紙の表1・2を参照
 展着剤としてベタリン - A（5,000倍）を加用
- 5 試験結果（別紙 表1・2）
 （1）主要イチゴ産地のナミハダニに対する各ダニ剤の殺卵・殺虫効果は、採集個体群で異なつた。
 （2）卵に対して安定した殺卵効果が認められたのは、コロマイト水和剤とマイトコーネフロアブルの2剤であった。
 （3）幼虫に対して安定した殺虫効果が認められたのは、アフーム乳剤，コテツフロアブル，コロマイト水和剤及びマイトコーネフロアブルの4剤であった。
 アフーム乳剤とコテツフロアブルは、他県で感受性低下が疑われる試験結果がでている。
- 6 試験結果の利用上の留意点及び今後の対策
 （1）薬剤の効果は個体群（ほ場）によって異なるので、散布後は必ず防除効果を確認する。
 （2）感受性低下を防ぐために同一系統薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
 （3）薬剤の使用時期及び使用回数等の使用基準は厳守する。
 （4）効果の高い薬剤が少ないので、薬剤防除だけでなく、耕種的防除法や天敵等を利用した総合的防除対策を講じる必要がある。

< 参考 > 試験結果の詳細

1 供試虫の採集場所等

採集場所	採集作物	試験区分	採集年月日	検定年月日
日置市伊集院町中川 (1ほ場)	イチゴ	殺卵	2006年11月12日	2007年1月9日～19日
		殺幼虫	2007年5月14日	2007年5月23日～6月8日
さつま町湯田 (1ほ場)	イチゴ	殺卵	2006年11月15日	2007年1月9日～19日
		殺幼虫	2007年5月14日	2007年5月23日～6月8日
志布志市有明町野神 (1ほ場)	イチゴ	殺卵	2006年11月17日	2007年1月9日～19日
		殺幼虫	2007年5月22日	2007年8月1日～10日

2 供試虫及び虫数等

供試虫：イチゴ苗及びインゲンマメ苗で飼育した雌成虫。

供試虫数，反復：殺卵効果試験 -約80卵，3反復

殺幼虫効果試験-約30頭，3反復

3 試験方法

浜村（1997）の方法に準じ，25℃の恒温室で試験した。

(1)殺卵試験-雌成虫10～15頭を放飼し，2日間産卵させたインゲンマメ葉片（2cm×2cm）を所定濃度の薬液に約10秒間浸漬した。風乾後，寒天平板上に静置して処理4日後にふ化の有無を調査した。

(2)殺幼虫試験-ふ化幼虫をインゲンマメ葉片とともに所定濃度の薬液に浸漬し，処理2日後と4日または7日後に幼虫の生死を調査した。苦悶虫は死亡虫とみなした。

4 試験結果

(1)殺卵効果（表1）

ア コロマイト水和剤とマイトコーネフロアブルの殺卵効果は，3個体群とも高かった。

イ バロックフロアブルの殺卵効果は，さつま町と志布志市で高かったが，日置市では全く認められなかった。

ウ ニッソラン水和剤の殺卵効果は日置市で，ピラニカEWは志布志市で比較的高かったが，他は低かった。

エ オサダンフロアブルの殺卵効果は，3個体群とも低かった。

(2)殺幼虫効果（表2）

ア アファーム乳剤，コテツフロアブル，コロマイト水和剤及びマイトコーネフロアブルは補正死亡率94%以上で3個体群とも効果が高かった。しかし，アファーム乳剤とコテツフロアブルは，他県で感受性低下が疑われる試験結果がでている。

イ オサダンフロアブルは遅効的であったが，殺虫効果は高かった。

ウ ニッソラン水和剤の殺虫効果はさつま町で比較的高かったが，志布志市は低く，日置市は全く認められなかった。

エ バロックフロアブルとピラニカEWは，3個体群とも補正死亡率63%以下で効果は低かった。両剤の感受性低下は他県でも認められている。

(別紙)

表1 ナミハダニの卵に対する各種薬剤の殺卵効果(補正未ふ化率, 2006年11~12月採集)

供試薬剤名	希釈倍数	殺卵効果(補正未ふ化率)		
		日置市伊集院町	さつま町湯田	志布志市有明町
オサダンフロアブル	2,000	14	26	33
コロマイト水和剤	2,000	92	76	100
ニッソラン水和剤	2,000	71	30	15
パロックフロアブル	2,000	0	99	99
ピラニカEW	2,000	16	44	71
マイトコーネフロアブル	1,000	80	83	99
無処理	-	(9)	(4)	(3)

注1)各地点1ほ場から採集。

注2)数値は, 3反復の平均値で示す。

注3)補正死亡率は, 無処理区の未ふ化率で補正。

注4)()は無処理区の未ふ化率を示す。

表2 ナミハダニの幼虫に対する各種薬剤の殺虫効果(補正死亡率, 2007年5月採集)

供試薬剤名	希釈倍数	日置市伊集院町中川		さつま町湯田		志布志市有明町野神	
		2日後	7日後	2日後	4日後	2日後	7日後
アフーム乳剤	2,000	100	100	93	98	99	100
オサダンフロアブル	2,000	34	79	23	83	30	100
コテツフロアブル	2,000	50	97	100	100	52	94
コロマイト水和剤	2,000	82	100	100	100	93	100
ニッソラン水和剤	2,000	0	0	11	71	44	49
パロックフロアブル	2,000	10	57	51	63	5	47
ピラニカEW	2,000	28	30	48	55	33	43
マイトコーネフロアブル	1,000	96	96	88	97	100	100
無処理	-	(15)	(18)	(1)	(1)	(3)	(5)

注1)各地点1ほ場から採集。

注2)数値は, 3反復の平均値で示す。

注3)補正死亡率は, 無処理区の死亡率で補正。

注4)()は無処理区の死亡率を示す。